

2023年12月21日

学生・教職員・研究者の皆さんへ

藤田医科大学

学長 湯澤 由紀夫

## 生成 AI の利活用に関するガイドラインについて

本学は「その時、いちばん動ける藤田学園へ」をスローガンに、多くの課題に All Fujita で挑み、貢献することに取り組んでいます。そして今、これまでの技術革新がそうであったように、生成 AI が社会を大きく変えようとしています。これを適切に利活用することで教育研究に多大な効果をもたらすことが期待できるため、本学では、この新しい技術を積極的な姿勢で教育・研究・診療・運營業務等の現場に取り入れます。

生成 AI が有効と想定される場面としては、情報収集、文章校正、論点の洗い出し、ブレインストーミング、翻訳やプログラミングの補助等の主体的な学びや調査研究の補助・支援などが考えられます。

学生なら、外国語学習、PBL（問題解決型学習）、グループ学習、レポート作成など自らの学びの深化、自分自身の批判的な思考力や学究精神の醸成等の場面に、教員・研究者なら、講義資料作成、データサイエンス教育、論文執筆、IR 分析、データ収集など授業改善や研究推進等の場面に、事務職員なら、イベント企画、議事録や規程類の作成など広報活動や会議の運営等の場面に活用できます。

ただし、生成 AI の活用には、著作権侵害、機密情報・個人情報の漏洩などのリスクが伴うケースがあることを理解するとともに、以下の点に留意して活用することが重要です。

### 生成 AI の利活用における留意事項

#### (1) 学修成果物への生成 AI の利用について

- ・ 生成 AI の出力をそのまま利活用して成績評価の対象となる学修成果物を作成しないこと。提出された学修成果物が生成 AI の出力のままであると判断される場合は、成績評価の対象外とする。
- ・ 学修成果物を作成する過程で生成 AI の出力を利活用した場合には、利活用した旨と利活用した生成 AI の種類、入力したプロンプトなど利活用した方法を明記すること。

## (2) 生成 AI の技術的限界について

- ・ 大規模言語モデルによる生成 AI の出力結果には、収集された学習データに基づくバイアス、学習データの収集期間や時期による制約が含まれている。そもそも生成 AI は、ある語句の次に用いられる確率が最も高い語句を出力することで「もっともらしい」文章を生成するものであるため、出力内容に虚偽・誤りが含まれる可能性があることに留意すること。
- ・ 生成 AI を学修に利活用する場合、出力された情報の真偽について、複数の情報源により必ず検証すること。
- ・ 最新の情報や専門的な情報が必ずしも反映されていない可能性があるといった問題を理解し、研究不正を生じないよう留意すること。
- ・ 共同研究や産学連携活動に生成 AI を利用する場合には、可能であれば連携機関も含めて統一的に対応するよう留意すること。

本学は、こうした留意事項を学生・教職員・研究者に対して周知し、生成 AI を適切に活用しながら、論理的思考能力、表現力、研究倫理などを身につける機会を提供します。

なお、このガイドラインは、生成 AI の急速な発展・進歩に応じて、対応を見直していきます。実際に生成 AI を利用する中で判明した注意点があれば、より良いガイドラインとなるよう情報をお寄せください。

以上

### 【問い合わせ先】

藤田医科大学事務局 総務部学事課

T E L:0562-93-9901

E-mail:gakujika@fujita-hu.ac.jp